

Weekly Michael's News

<今週の聖句>

2016年12月5日発行 No.24

すると、主の天使が近づき、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。天使は言った。『恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。』
(新約聖書 ルカによる福音書 第2章 9～11 節)

<あの鐘を鳴らすのは…あなた!? ついに設置された聖鐘の祝福式を挙行!!>

先週の通信でも少し触れましたが、チャペルの入口に鐘が設置されました。その奉獻・祝福式が11月30日(水)の11:30より、前田理事長の司式によって執り行われました!! 忙しい時間帯であるにもかかわらず、20名を超える教職員の出席者が与えられ、そこに集った者皆が心を一つにして感謝の祈りを捧げました。前田理事長が聖別して下さった水によって清められた鐘は、より一層美しい響きを持って学内に大切な時を高らかに告知させます。この音色が神戸国際大学に集う一人ひとりに平安と活力を与えるものになるよう祈りつつ、感謝をもって鐘を鳴らし続けたいと思います。



祝福式に多くの職員が参加!!感謝!!



聖水で祝福を行う前田理事長



鐘の音が高らかに礼拝開始を告げる

<12月7日夕刻、KIUの中央に何かが起こる…。真の喜びを示すクリスマス礼拝が近い!!>

気がつけば2016年も最後の月12月。町は煌びやかなイルミネーションに飾られ、お馴染みのクリスマスソングが聞こえてきています。しかし!!! 皆さんは「クリスマス」の本当の意味をご存じでしょうか!? 「クリスマス」を英語で表記すると「Christmas」、これは救世主を表す「Christ (キリスト)」と、礼拝を表す「mas (ミサ)」が合わさってできた言葉であり、つまり「救世主であるイエスの到来をお祝いする礼拝を行う日」という意味があります!! (決してサンタさんの誕生日ではない!!)

私たちが集うKIUは、キリスト教をその土台に据えており、当然この日を覚えて、いつもより特別な礼拝や祝会等が予定されています(詳しくはチラシをご参照ください)。

様々な出来事があった2016年。それを静かに、そして喜びの中で振り返り、来るべき新しい年、2017年の希望に繋げていきませんか? あなたの参加をお待ちしています。

構内中央に現れた謎の物体の正体とは…?



＜先週のメッセージ＞

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています

11月28日(月) 前田 次郎(理事長)

テーマ「あなたの目は大丈夫か」

「目」に関する諺が多くあるように、目は重要な知覚器官である。今日の聖句「体のともし灯は目である」も、「目」がその人の全人格を表す事を告げる。しかし、多くの欲望が「目」を通して体中に入ってくるのも事実だ。旧約聖書の創世記、有名なアダムとエバの原罪物語にも「目を引き付け…」「目は開け…」などの表現があり、人類最初の罪が「目」から起こった事が示されている。一方、聖書は「神の目」の存在、この世の全てを司る全知全能の「目」の存在を告げる。私たちは、「祈り」によって「神の目」に繋がり、また支えられる機会を得る事ができる。

11月29日(火) この日は、音楽礼拝!! 聖歌隊がクリスマスの聖歌を奉唱してくれました!!
聖歌隊の奉唱は今週も続きます!! ぜひ火曜日はチャペルまでお越し下さい!!

11月30日(水) 羽瀧 貴司(経済学部)

テーマ:「地元 神戸に学ぶ」

皆さんは「神戸ってどんな町?」と聞かれて何と答えるだろうか? 外国からやって来た留学生、世界都市神戸について何も知らないで帰るのはもったいないと思う。私は「神戸学」を研究している。他大学やシンクタンクと協力し、特に震災以降の神戸について、できるだけ現地調査を行い地域の生の声に耳を傾けながら記録を作成、50年先にも役立つようなデータを目指している。特に神戸は歴史やファッションに加え、地場産業が盛んだ。シューズや真珠加工など時代の急激な流れの中でも半世紀以上続く産業が珍しくない。住み易さランキングでも常に上位にランクインする神戸。その魅力を更に探していきたい。

12月1日(木) 野間 光顕(チャプレン) テマ:「忘れ物グラフ~小学生時代の失敗から~」

小学生の頃、私は、忘れ物の多さから漢字の書き取り8000字というペナルティを受けた事があった。その途方もない課題に心が折れそうになったが、母の応援もあり何とか課題をクリアできた。そんな折、母が私に一言。「今度からそんな課題を背負わぬように、前日に準備したら?」その事件を機会に、夜に準備を行うように心掛けると、不思議なぐらい忘れ物をしなくなった。この経験から、私は物事に向かう時の「準備」の大切さを学んだ。「全ての結果は準備から」という言葉もあるが、身の周りに起こる出来事に対し、どれだけ心を込めて準備できるかで、その人の歩みは大きく変わる。今は主イエスの誕生を祝う準備をする降臨節(=アドベント)。この時に相應しい備え、歩みを共に進めていきたいと願う。

12月2日(金) 中原 康貴(チャプレン)

テーマ:「クリスマスといえば」

多くの子供はクリスマスを「サンタクロースがプレゼントをくれる日」と誤解しているが、教会には「サンタクロースの日」があり(12/6)、サンタクロースには実在したモデルがいる。4世紀に実在した牧師ニコラスだ。教会の隣に住む可愛い三姉妹が、借金の代わりに奴隷として売られる事を知ったニコラスは、取って置いた両親の遺産をこっそり彼女達の家窓から放り込んだ。この日がクリスマス・イブだったと言われている。現在の「クリスマスプレゼント」という習慣は、18世紀のドイツやオランダで始まった。時代は産業革命の只中、子供は労働力として毎日働かされていた。そこで「せめて年に一度だけでも子供たちに笑顔を」そんな思いからサンタクロースによるプレゼントの習慣が始まった。今年のクリスマスは、「小さな優しさの中にいるサンタクロース」に目を向け、日頃多くの人から受けている恵みを用いて、私たち自身が誰かの笑顔を生むサンタクロースになって欲しい。

(文責:野間 光顕)